



どんぐりの結実状況調査

ツキノワグマ(以下、クマ)の秋期(9月から11月)の人里への出没と捕獲数が、秋の主要な食物であるどんぐりの実り具合で変わると言われていることから、平成25年より毎年、市西部においてどんぐりの結実状況調査を行っています。

そして、クマだけではなくイノシシやサルなどの大型哺乳類等もどんぐりを利用していることから、クマ等の大型哺乳類が秋期に人里へ出没する可能性の大小を把握し、注意喚起に役立てる目的で行っています。

調査方法

樹冠全体の結実状況を目視で確認し、右の判定基準を基に評価しています。樹種によって調査本数は異なりますが、合計約200本調査しました。

市西部の4つの区域ごと、樹種ごと(ブナ、ミズナラ、ヤマグリ、コナラ)に結果を出しています。

調査しているどんぐり(調査時期の写真)



〔判定基準〕

豊作	全体にたくさん
並～豊作	豊作と並作の間
並作	一部にたくさん 又は全体にまばら
不～並作	並作と不作の間
不作	全体に数個
凶作	全くない

どんぐりのみのりを調べたよ



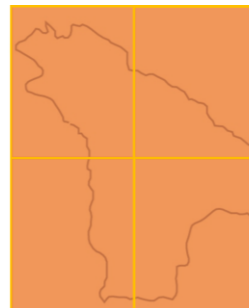
結果

市の西部全体の結実状況「**並作**」

昨年(不～並作)より少し良い結果となりましたが、市内の標高の高い山地から奥多摩にかけて自生するミズナラは、昨年よりもナラ枯れによる枯死が目立ちました。

そのため、標高の高い山地ほど「**不作**」に近い結果となっています。

〔区域ごと〕



〔樹種ごと〕

ブナ	不作
ミズナラ	並作
ヤマグリ	不～並作
コナラ	並作

野生動物を人里に引き寄せない・人身被害を防止するための対策

- ★ クリやカキ、キウイフルーツなどの果実の収穫
- ★ 養蜂巣箱や不要となった農作物の管理
- ★ 決まった時間のごみ出し
- ★ 野生動物が隠れそうな草やぶの刈払い
- ★ 早朝や夕方の入山を避ける
- ★ 山に入る際の心構えと準備

など、ご協力をお願いします

第15期 森の子コレンジャー 9月2回分の活動報告

9月のコレンジャーは、上旬と下旬の2回活動しました。テーマは「森林レンジャーが行う調査活動を知る体験と季節の自然発見!」です。1回目は、気温が30度を超えていましたが、時々秋風が吹いて助かりました♪2回目は、晴れ時々曇り、そして活動中はずっと心地よい秋風が吹いていました♪

調査体験以外にも、季節の動植物を発見したうえ、私たちにとって危険な生物「チマダニの仲間」や「スズメバチの仲間」、そして「ナラ枯れ木」にも出会いました。また、珍しい蛇「シロマダラ」が登山道でひかれていました😞

この道は、登山者以外にも山を走る人や作業車も利用するので何にひかれてしまったのかは分かりません…山の道を歩く時は、自分のためだけではなく生物たちのためにも足元に気をつけよう、とみんなで話しました。

上旬の活動では、昨年と同じくセミとコオロギの仲間の鳴き声を聞きましたが、下旬は昨年耳にしたシカの鳴き声は聞こえませんでした(今年の初確認は10月2日)。それでも、秋風の心地よさを体感し、季節の動植物と出会い、着実に季節が変わっていることを感じられた9月の活動となりました。次回は11月です!



ハグロソウ



大きさ約1mmの
チマダニの仲間(幼体)



キボシカミキリ

季節の自然発見 ～シモバシラ～



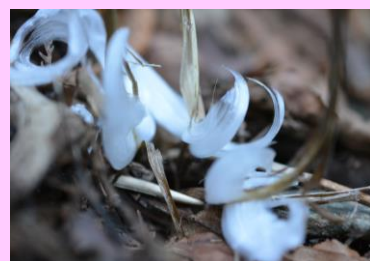
冬の寒い日。土から氷がニョキニョキと柱のように立っている「霜柱」。同じ名前の植物をご存じでしょうか。

シモバシラは、晩夏から秋にかけて白い花を多数咲かせるシソ科の多年草です。山地の木陰に咲く花は、白い花びらに薄いピンク色の雄しべと雌しべが映えるので、とても目を引きます。しかし、花が咲く前はなかなか認識されていないかもしれません。それでもよく観察すると、夏の間に小さな蕾をつけた穂状の花茎が徐々に大きく伸びていく様子や、勢いよく描いたような葉の鋸歯には花の頃にはない美しさを感じられます。

シモバシラは、市内では主に北向きの斜面に自生していることが多く、シカなどの草食動物には好まれていないようで、採食されずに今年も綺麗な花を咲かせていました。

しかし、本当の見どころは“冬”にあるという方が多いかもしれません。それは、冬になると枯れた茎に霜柱のような氷の結晶ができるからで(右の写真)、和名の由来にもなりました。

シモバシラ以外にも氷の結晶ができる植物もありますので、雨も風も雪もない寒い日に氷の花を探索してみたいはいかがでしょうか。幸運にも出会えたら、ぜひそっと観察してください。



2014年12月19日16時頃撮影